



今月は、4月より就任いたしました病院顧問からご挨拶と産婦人科から不妊症について、ご紹介させていただきます。

対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

## 病院顧問就任の挨拶



まつもと まさやす

病院顧問 **松本 昌泰**

### 【略歴】

- 1976年 大阪大学医学部卒業
- 1982年 大阪大学大学院修了（医学博士）
- 1984年 米国メイヨークリニック留学（脳神経内科学教室：2年4カ月）
- 1986年 大阪大学助手 医学部第一内科
- 1997年 大阪大学講師 医学部第一内科（神経内科兼任）
- 1999年 大阪大学大学院助教授 病態情報内科（神経機能医学兼任）
- 2002年 広島大学大学院教授 脳神経内科学（第三内科）
- 2008年 広島大学医学部医学科長兼任
- 2015年 JCHO星ヶ丘医療センター 院長
- 2018年 堺市立総合医療センター 顧問
- 2021年 現職（広島大学名誉教授／大阪大学招聘教授）

### 【専門領域・資格・学会関係など】

日本神経学会（専門医・指導医）、日本老年医学会（専門医・指導医）、日本脳卒中学会（専門医・指導医）、日本動脈硬化学会（認定指導医）、日本高血圧学会（専門医・功労会員）

なお、神経学会、脳卒中学会、動脈硬化学会、脳ドック学会、世界脳卒中機構（WSO）などの関連学会で理事を歴任。また、2012～2021年にかけてThe Best Doctors in Japanに連続選出。

### 【社会活動・受賞など】

日本学術振興会医歯薬班の主任研究員、PMDA専門委員など。また、主任研究者を務めたJ-STARSや各種の臨床試験（PROGRESS, JAST, RESPECT研究など）に関与し、臨床エビデンスの構築に貢献。

なお、広島大学学長表彰（2011年度）、美原賞（2015年度）など各種の賞を受賞。

2021年4月から脳神経内科領域の医療の充実に貢献すべく病院顧問に就任いたしました。脳神経内科が扱う疾患は、脳卒中、意識障害、てんかん発作、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群などの神経救急疾患から認知症、頭痛、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、各種の末梢神経・筋肉疾患にいたるまで多種多様です。このうち、私の専門領域は脳血管疾患で、なかでもその発症・再発予防対策や新たな診断・治療法の開発に注力してきました。超高齢社会のわが国では、高齢者に多発する、がん、脳心血管疾患、認知症、パーキンソン病、骨・関節疾患などの疾患やフレイル・サルコペニアなどへの適切な対策が健康長寿社会の実現に必須と考えられています。なかでも、脳血管疾患は、高齢者の「寝たきり」の最大原因であり、その後遺症の「血管性認知症」は認知症の原因としてもアルツハイマー型認知症に次いで多く、超高齢社会で最も重要な「国民病」の一つです。

また、わが国では脳卒中や認知症予防を目指した脳ドックが普及しており、その質の向上により、これらの疾患の発症予防にも大きく貢献すると期待できます。当院の健診センター・脳ドックや神経内科・脳神経外科などのスタッフが地域の実地医家の先生方と協力し、脳卒中・認知症予防に取り組む最適な体制の確立に努めてまいりたいと思います。2018年12月には、脳卒中・循環器病対策基本法が公布され、2019年には脳卒中学会や神経学会、内科学会、老年医学会などを含む多くの学会の協力のもとに小職も関わった「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2019」（日内会誌108: 1024-1070, 2019）も日本医師会の編集協力のもとに発行されており、是非参考にいただければ幸いです。

神経内科の那波主任部長や上原医長とも相談の上、近々専門外来を立ち上げる予定ですので、ご遠慮なくご相談、ご紹介いただければと思います。

# 産婦人科で不妊症に対する外来診療を拡充します



本年4月より、不妊治療専門の女性医師による精子減少症・精子無力症などの男性不妊や、原因不明の不妊症に対して、人工授精治療を開始いたしました。また、重度排卵障害の患者さまには、自己注射を用いた排卵誘発治療も可能となりました。

## 人工授精について

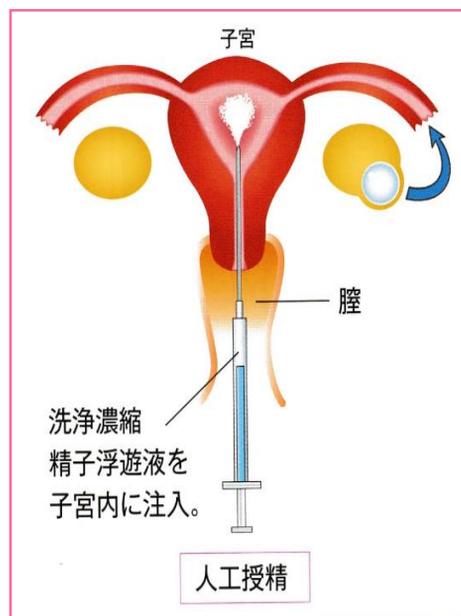
### 対象疾患

精子の数、運動率が低い  
タイミング療法で妊娠しない  
性交渉での射精ができない など

### 治療の流れ

- ①超音波検査や尿検査などで排卵時期を推定します。
- ②排卵日の前日あるいは当日に、ご自宅で採取していただいた精液を持参いただきます。
- ③30分かけて洗浄濃縮した後、外来で細いカテーテルを用いて子宮内に注入します。

妊娠率は7-10%程度です。



## 在宅自己注射を用いた排卵誘発について

排卵誘発治療として、ペン型注入器を用いた在宅自己注射を導入いたしました。クロミフェン療法が無効・不十分な排卵障害や多嚢胞性卵巣症候群に伴う排卵障害の患者さまに有効な治療です。通院にかかる時間が節約できたり、多嚢胞性卵巣症候群の患者さまには、HMG製剤を投与するより卵巣過剰刺激症候群のリスクを低くすることができるといったメリットがあります。

### ⇒ シンプルな3ステップ ⇒



当院では不妊症スクリーニング検査も行っており、治療においては患者さまそれぞれに合った適切な治療方法をご提案いたします。対象患者さまがおられましたら産婦人科外来へご紹介いただけますと幸いです。



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。